



奇異雜談集
五

13
1790
5



和奇異雜談集
五

13
1790
5

13
1790
5

奇異雜談集卷第五

目錄

一 硯いんとれれ鈴すずの子こああくく天てん止とせせ奉ほう

二 壺か竈かまど大おほ燭しやく乃の也やしし瓶びんののけけららびびんんすす

三 三さん糸いとのの子こ小こ刀かみとと盜ぬすままわわくくももひひししまま

四 婦あま乃の魂たま魄たま妹いもうとのの祈いのちととりり更さら々々終しまりりししまま



奇異雜談卷五

の目録

奇異雜談集卷第五

一 硯石のふりて天上せり来

武蔵のふれ人ふりていづくじうみ金河乃宿と云
人ふり國のふりらんよ若のさやくして今不
るべりなりびり金河金世のこれ福宗の寺わり
待却僧お女人ふり沙湯わり寺れ若宿よ硯一めん
ありあつ存めり此おくよさ何とめてわりま
どくま内硯とくわくじうしりおさうの若宿あり
わさうこれなのら方丈おろくわけと硯書院のと
しつにの硯とをれ前れまじとわけく長巻は
者沙汰唱念号教人座おりあくとくじよ年を



奇異雜談集卷第五

時よりよ人もらひしきりてはなほのまらりしはねいとも
 て二のよもれくこもいふれのをなかりしれんふ
 くみまは硯の中へ隠れし虫かたし虫かたりたり
 一のこくちて二のこくちたりたり板のふにありあり
 もあはれし板あり沙汰唱念この虫よりさん
 次長光割くこくちたりたりて廟のうら
 糸のまきなす池ありあり沙唱念
 たりと池のまきみまはのじり中まき居伸
 とれんくく人よりさみすよかり一人かたりと
 てに三人かたりてさあひかきうれゆかたれ連
 たりと座をぬか指した時より空めんふをりりたり

言ふらりて書池のありたり長光信長
 わけされ電雷座ありてあひたり
 寺中あり地御あり寺なるとんく人れ
 たりとされ寺前ありありてこり代
 先よりして書雷ありたりと板刻あり
 て書中に読のひんくこれ書天の舟まは読
 是れありひん尾のうれありてみるありのあり
 らふありたりて見ると寺中書書ありあり
 寺はありありありのなるとれ石本池ありあり
 て書ありありありありありありありありありあり
 たりとありありありありありありありありありあり

ろかりり毎うし〜とらまのつゝ〜の硯と〜
 そのま〜のり〜のほら〜あ〜と〜れめそのま〜と〜
 け〜のま〜らあ〜と〜んよみと〜は〜り古老の人〜
 とい〜と〜を〜訪みら〜海よふ年山よふ年一里可
 ふ年。三ふ年〜と〜と〜訪と〜りして天よあ〜らと
 い〜は〜ら〜と〜り。おぬ海座の名よ。訪ふと〜んよい〜れ
 く。ふ年〜と〜と〜と〜その石山よあ〜は〜し。ふ年の故
 又里に〜る〜る。ふ年の内ぬ。此石と硯よ〜ら〜時訪み
 その中奥よあ〜ら。奇異し〜ら〜り。も〜く〜く。大衆
 の道場。歡光寺。れ。吾。実。若木の名号。れ〜と〜也。





よめく髪と釵よもて。と海くときげて金
くでとくたり。日本よの女の筋曲とよ
くくたり釵と金根洞洗湯松骨南作本
とくたりとくくたり。夜乃禰よ。記多のゆひ
とくくして。ゆりにきくたり。金剛と金とりのて
風風とくくたり。日本にきくたり。天冠と
楊貴妃乃終よみくたり。是と文字別ゆわゆ記
とハ金剛釵の物語と記とる也

元徳乃大徳年中の事なり。楊列は具清禦と云
りのありなり。人ゆわく。人ゆわく。写りたり。あ
うんちよ。ゆわく。若と。人ゆわく。是と。人ゆわく。給

ぐま娘とつひ七八年このころ方くより石浜の依
 子つひとつひも。薩君よきそよきん命くあるゆへに
 他海の依ぢひよとらふたふなり。海の進退さるら
 ぬるを味海の依ぢひよとらふたふなり。海の進退さるら
 うし十八よかりりごととらふたふなり。海の進退さるら
 じごらふたふなり。防衛よつひとらふたふなり。海の進退さるら
 年。一書とほしむとらふたふなり。海の進退さるら
 くにさるる命くやつひとらふたふなり。海の進退さるら
 諸とわよよとらふたふなり。海の進退さるら
 やつひとらふたふなり。海の進退さるら
 義容めつてとらふたふなり。海の進退さるら

ありとつひとらふたふなり。海の進退さるら
 血氣とつひとらふたふなり。海の進退さるら
 ころとつひとらふたふなり。海の進退さるら
 足り。家おとらふたふなり。海の進退さるら
 ひとつひとらふたふなり。海の進退さるら
 あえて十九めとらふたふなり。海の進退さるら
 一家中とつひとらふたふなり。海の進退さるら
 髪とつひとらふたふなり。海の進退さるら
 く髪とつひとらふたふなり。海の進退さるら
 よく。は海のつひとらふたふなり。海の進退さるら
 とつひとらふたふなり。海の進退さるら

てなすひもえては井よ死をむくはまわりのこと
くまひことあるはあり崔亭はましく申しつるは
るんして歎息と防禦のつと崔亭よりしては前
よりして位牌とみまじ崔亭よりしては前
さなまことあがりては防禦のつとあんがら亡父崔
君を我らつらんが故に人なり故に人なりまじり
みたり真娘よりしては前人の命はあま
あられはうつくのむとせましくせよのこころに
家あり外記のむとせましくせよのこころに
乃とあまの府とせましくせよのこころに
から三月三日清明のきむりつては前人の

風俗として場ものかりて先祖一族の身とありて
是日本の義よりかりたり防禦史婦を嫁とす
いれ場ものかりありまじり真娘を極とすかり
亭とまじりては前殿とせましくせよのこころに
崔亭よりしては前人のむとせましくせよのこころに
防禦の位よりしては前人のむとせましくせよのこころに
らまじりありては前人のむとせましくせよのこころに
あわれむるは縁のむとせましくせよのこころに
あわれむるは縁のむとせましくせよのこころに
あわれむるは縁のむとせましくせよのこころに
あわれむるは縁のむとせましくせよのこころに
あわれむるは縁のむとせましくせよのこころに

てよとせせばはよきくしあさるゆい。我が家に
 こそやういびとわし年より座して敷よとまは
 年ねんの海うみこそちんぬ。我がよ宿しゆくとらふことかなん
 らりことわらん。あはれいんと歎息たんそく。且またはま
 らに我が家の口くちまきくさくあわらむことやんか。あせ
 どし又またくさゆいよ。あつてまもあはれ座ざを
 よんねわりの戸かどのあくとみくまきしてはまのこらあ
 女のむすめいひひもびりり。雀すずめとよはらえ拒こたんや
 くれと女むすめとこれ座ざよつてこらとあつちりあ
 けりてあゆやうよりりしてはし我々われらと娘むすめのいひ
 女むすめあり。若わか者の宗むね若わかとあべとあかんか。あつち
 らつたあ

へいしあつれとんぬ。雀すずめとよはらえ。多た情じやうとてご
 一ひととごご人のあつこしとらん。老父らうふあつちり
 ちんぬ。りあはれま。我々われらとに老父らうふ乃すなはとよと
 おろづ。いやくか。りあつちり。女むすめのいひくさ
 ぬ。下したより。全ぜん風ふう又またとあべと君きみとあつちり。あ
 ちんぬ。らりりり。こまきりなり。我々われらのこらと
 ちんぬ。あつちり。あつちり。人ひとと。父母ふぼとまきり。あ
 公こうとあつちり。怒いかく。と。あつちり。あつちり。あ
 雀すずめと。あつちり。あつちり。雀すずめと。あつちり。あ
 多た情じやうと。あつちり。あつちり。あつちり。あつちり。あ
 多た情じやうと。あつちり。あつちり。あつちり。あつちり。あ



次乃取まゝにさへし前めくはるはる
 来入るるこし一月またさうぶなりわつ女の時
 今まどく人のまゝは海にまさいま井をえり
 くののまのまは魔のこりりわ
 れる老父のせあわは縁と終一眉目と
 我国行くまゝ。此のわらも通海がぐらまは
 乃園とあゆめゆも身をまをるるまは
 とまよつてそののれゆは後とまを村ま
 せんといふは雀ののり。我のゆもまの
 屋くともあはれんは我のゆらまは
 又雀の君の時。まのひらんわりの金葉

漢江縣よぶ家^おとてむね種く種うんぶれたり敷
目の原に代る河舟^おとしてゆばおんのまづらひくあ
らんゆり舟と成りてくして米取種うんと成りて
ひりりり女^お後おんで米取に并に^おしてゆひと
うく^お。金風釵と名^おしてとをに^おしてゆひと
のりてゆりり敷日^おゆる^おして法江縣より
金栄が家と^おうらぬれちる^おてゆひと^おの
しと^おあり^お。丹村の長と^おて^おり^お。雀^おわ^おり
よ^おあ^おら^おん^おで^おり^おら^おん^お金栄の^おわ^おり^おら^おん^お
先^おち^おと^おて^お雀^お奇^お揚^お列^おら^お故^お右^お先^お父^おの^お姓^お名^おを
ら^おひ^おり^お。我^お乳^お子の^お何^おら^お名^おと^おけ^おれ^おん^お。金栄^おの^おり^おら^おん^お

よ^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
ら^おん^お中^お堂^おと^おわ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
東^お所^おと^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
親^お族^おを^お一^おサ^お婦^おと^お具^おと^おら^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
と^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
母^おら^おん^お今^おも^おら^おん^お君^おと^おり^お早^お家^およ^お御^お事^お條^おに^おら^おん^お
ら^おん^お怖^おれ^おら^おり^お且^お父^お乃^お食^お法^おに^お何^おの^おい^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
ゆ^おり^おら^おん^おの^おい^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
と^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
一^お年^おら^おれ^おら^おり^お父^お母^おの^お心^おと^お愛^おじ^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お
と^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^おて^おゆ^おり^おら^おん^お

縁つてくささるけりしやうしてのられ縁とてけの
とえうやよしとて防禦のいづく。雀舟のしとま
雇ひし我じとあま娘とを報復の時よ縁のわり
くゆりてしりやまひとえく。奉みうて特断も人と
りし。麻痺もつ以紙禁と心事。一年よとづり
わよみしやわんやぎとめく他女けるん——とて雀
舟よいづく。あま娘とてゆりてあまのまよひとせり
ておげいん——やよとて防禦のいづくとて
童とけつとて雀舟とてゆりていづくにしれ。舟中に
女あり。舟よとてとらんか。かうえしみていづく。あま
りし。雀舟とせめく。母妖性とていづく。雀舟とていづく

中あまのあやうとていづくにきつて防禦よせいと
ほくして防禦のあやうとていづくにきつて雀舟
御中より金風殿とていづく。防禦のいづくと
みくといく。まの真娘とていづく。板よとていづく
物けり。いづくして今うにきつるや。舟中の女とて
とていづく。縁とていづく。あまのまよひとていづく
奉りし。あまのまよひとていづく。いづくにきつて
いづくのいづくとていづく。真娘とていづく。舟
しとていづく。あまのまよひとていづく。いづくにきつて
あまのまよひとていづく。いづくにきつていづく
いづくにきつていづく。いづくにきつていづく。いづくにきつて

金風奴と市めらりて銀二十疋とてその代り
 焼鳥燭燭等浅帯帛等代買て浪俱よ奇
 て瓊花觀とて山上の寺よまらうて達磨といふ
 通士よ念じて三日之夜とてひとも又爰よ崔
 奇よみしていそ君のうづひもけく尚能悟らん
 曲めと命つひと之も海とてうき感とてうき
 と爰娘柔和たり。殊く是とてんげよとて
 とらんくさわとて崔奇やうとてんげとて
 たり。けり異りけり

奇異雜談集卷第五終



